岐阜県立岐阜病院病診連携新聞

すこやか

創刊号
平成13年7月
発行

岐阜県立岐阜病院
病診連携推進部会

病院理念

県民に信頼され、患者さまの立場にたった
よりよい医療を提供するために
一、Humanityに基づいた医療
二、EBM(Evidence Based Medicine)の実践
三、効率的な病院運営
に努めます

開放型病床開設にあたって

県立岐阜病院
院長 清水　勝

21世紀は開かれた病院。

医療費の高騰、いや保険医療財政の困窮というべきでしょうか、今、医療界は大きな問題を抱え込んでしまいました。誰しも「何時でも何処でも、自由により良い医療を安価に受けたい」と願うものであり、また私達医師も常日頃「よい良い医療を提供したい」と努力しております。しかし、医療費抑制のための施策が取られようとしています。私達医療提供側もこの現実に目を瞑っているわけにはいきません。

その方策の一つとして、「効率的な医療の提供」をあげることができます。医師過剰時代といわれる現在、医療機関の機能分担がますます必要になってきました。大学付属病院をはじめとするいわゆる大きな病院が、競って外来患者を増やし、入院ベットを増やす時代はとっくに過ぎ去りました。「外来は患者様の地域の診療所で、入院は病院で、しかも病診(病病)連携の下で」です。

この目的のため県立岐阜病院は、平成13年5月から開放型病床を開設しました。まず循環器科と消化器科の各々6床の12床ではじめました。幸い岐阜市医師会会員の先生方のご理解を得て登録医となっていただきました。5月の試行期間中多くの先生方に共同診察のため来院いただきましたが、診察後の討論では臨床経験豊かな院外主治医としての先生方の示唆に富むお話・ご指示には、大いに感銘を受けました。若い院内主治医には有意義なものと確信しております。厚く感謝申し上げます。開放型病床は、１２床でまだ全病床数の２％余りですが、順次全診療科、全病棟に広げていく予定です。

県立岐阜病院は、高額・高度の医療機器と優秀な人材をそろえた地域の基幹病院の一つであると院長自ら自負しております。この医療機器、人材、入院ベッドをご利用していただき、院外主治医として先生方の豊かな臨床経験とご協力のもと、病める方々に「より良い医療を提供したい」と願っております。またこのIT化時代、登録医の先生方と病院が瞬時に連絡できるネットの構築も必要になっております。県立岐阜病院の開放型病床が育っていきますよう、医師会をはじめ登録医の先生方の暖かいご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

私の希望は、県立岐阜病院が県民に信頼され、地域に開放された病院となることです。

病診連携室の紹介

病診連携室:内線237 小幡

左から富田、小林、小幡

今日地域医療をすすめていくうえで病診連携は欠かすことの出来ないものとなってきています。当院でも開放病床の取り組みを開始しました。入院治療に際して患者さまのことをよく知る地域の先生方とチームを組み、患者さまがより安心して治療が受けられるように、これまで以上に先生方との協力関係をより強めていきたいと考えています。当院では本年５月から12床を開放型病床として東４階病棟に循環器科６床、東６階に消化器科６床を設けて、病診連携を開始しています。また６月から病診連携室を外来棟３階に設置し、スタッフ３名が着任しましたので今後色々の方面からのご意見やご指導をお願いしたいと思います。ここで新しいスタッフのプロフィールを紹介させていただきます。病診連携室の連絡窓口である専門事務員の小幡博美さんは本年４月から当院に勤務していて優しくてとてもチャーミングな人です。出身は山口県岩国市で、県立加納高校卒業後、岐阜市立女子短期大学食物栄養学科卒業し、昨年度までは、当院の隣にありました健康管理院で、放射線技師さんと一緒に検査の一部を担当していました。趣味は犬の映画好きで休みの日にはよく映画館に通っています。病診連携は初めてで慣れないこともあり、はじめは先生方にご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、出来る限り利用しやすい体制を整えていくつもりでおりますので、よろしくご指導の程お願いいたします。次は病診連携室長補佐の富田政明先生です。出身は徳島県です。高校は徳島県立城南高校卒で、大学は岐阜大学医学部(昭和55年)卒業です。一時、米国のサウスカロライナ医科大学へ留学し、現在循環器科の主任医長として循環器を中心に研究、臨床に活躍中です。趣味はジョギングで、３年連続揖斐川マラソンに出場しています。亀の如くのろいそうですが、完走されています。循環器科は患者さまの出入りが激しいのですが、皆様によりわかりやすい医療を提供させていただきたいと存じます。よろしくお願い申し上げます。三人目は病診連携室長の小林成禎です。出身は岐阜市で、県立岐阜高校卒業後、岐阜大学医学部(昭和45年)卒業、昭和48年から当院の消化器科に勤務し現在、内視鏡部長を併任しています。趣味は卓球と水墨画です。高校時代から大好きでした卓球だけは腕に少々自信があり、今年５月広島で開催された第19回全日本医師卓球大会でシングルスに優勝しました。病診連携にも更に反射神経をよく磨いて対処して、より開かれた病診連携を築いていきたいと願っています。

閉塞性肥大型心筋症の新しい治療法

経皮的心室中隔アブ

重症閉塞性肥大型心筋症は左室流出路に収縮期圧格差を生じ、心不全、重症不整脈、そして突然死を生じる可能性を有する疾患です。閉塞性肥大型心筋症の治療はbeta ブロッカーやⅠ群抗不整脈薬のような薬物療法やDDDペースメーカーを挿入する方法、そして外科的に肥大した心室中隔を切除する手術などが行われてます。近年、重症閉塞性肥大型心筋症に対してカテーテルを用いて肥大心筋を栄養している中隔枝をバルーンで閉塞し、その遠位部に無水エタノールを注入して肥大心筋のみに心筋梗塞を起こし、肥大部の非薄化を起し、左室流出路圧較差を消失する治療が行われるようになりました(図１)。外科手術やペースメーカー植え込みに比し侵襲は比較的軽度であり、県立岐阜病院においても10例のHOCMに対しPTSMAを施行しましたが、その効果は絶大であり圧較差の消失、心不全や意識消失発作の劇的改善を認めております。１例を呈示しますが図２は心不全と狭心症を訴えた60歳の男性で左室流出路圧較差が120mmHgを認めました。PTSMAにて圧較差はすみやかに消失し(図３)、患者さんは心不全もなく元気に退院されました。この治療の合併症としては一過性完全房室ブロック、心室頻拍などの不整脈が出現することが報告されておりますが、その頻度は高くありません。ヨーロッパを中心に長期予後も良好であることが最近報告されるようになってきました。約１週間の入院にて退院できる治療法です。重症閉塞性肥大型心筋症が疑われる場合には当院に是非御紹介ください。

循環器科紹介

循環器科部長 渡辺佐知郎　循環器科医長 富田政明

近年の医療機器の進歩は目覚しいものがあります。特に循環器領域でのインターベンション治療は画期的な進歩を遂げております。カテーテルを使用して冠動脈の病気を治療する事を冠動脈インターベンションといいますが、今回は特にインターベンション治療につき当科での現状を以下にお知らせいたします。

心臓カテーテル検査（CAG）

心カテーテル法は診断のみでインターベンションとは違いますが、インターベンションの基礎となるものです。従来から当科では肘動脈を穿刺する方法で施行してきました。この方法だと検査後より歩行もでき患者さんの負担も軽くいい方法です。最近ではより少ない侵襲性の手関節の動脈を穿刺する方法も施行しております。こちらはさらに患者さんの負担が軽く手首を曲げないようにするだけであとは自由に動けます。この方法では出血の合併症が格段に減少します。

心カテ検査は平成12年度は3500件数施行しました。これは施行数の多さでは全国でも3位以内に入る多さです。

経皮的冠動脈形成術（PTCA/STENT）

最近ではメッシュ状の金属のステントが改良され病変部の通過性が向上し、現在はステント全盛期です。ステントには色々の形や性状のものがあり当院でも種々のステントを使い分けております。また石灰化の強い病変にはロータブレーターといって人工ダイアモンドが多数ついたバーを使い動脈硬化病変を削り飛ばす方法も盛んに施行しております。またDirectional Coronary Atherectomy(DCA)にて動脈硬化病変を削りとり回収する方法も適応症例には施行しております。件数として年間800以上を施行しており、これは施行数としては東海では1、2位を競う数です。全国的にも上位5指にはいる多さです。また施行医は経験数が非常に多く技術的にもトップクラスです。

経皮的心室中隔心筋焼灼術（PTSMA）

肥大型心筋症のうち左室流出路に閉塞を来たす閉塞性肥大型心筋症に対し、ごく最近になり、肥大して左室流出路の妨げとなる心室中隔をアルコールで焼灼し、つぶす方法が開発されました。症例を選べば非常に効果のある良い治療法です。現在6例施行しております。

全例にて術後に心不全は著明に改善しております。

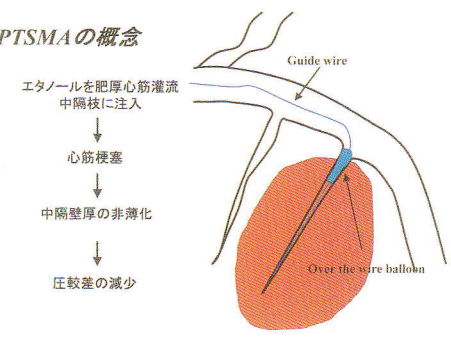
心臓カテーテルアブレーション

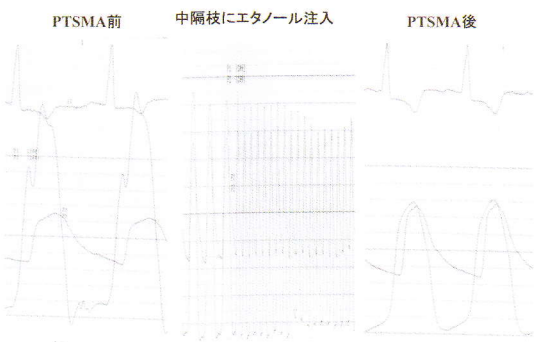
頻脈性のカテーテルによる治療法です。多くの上室性頻拍症（PSVT,PAT）がこの治療の対象となります。唯一の根治療法です。発作からも薬剤からも患者さんは開放され、患者さんからは非常に感謝されます。昨年度は約50例施行しました。今年3月より「カルトシステム」が導入されました。これはelectro-anatomical mapping法といって電気的情報と空間的位置情報を同時に記録して3次元表示してくれる優れた装置です。本邦では数台しか入っていませんが、岐阜県では最初のものです。これにより透視時間が短縮し、また成功率がよくなりました。今年はすでに3カ月で20例施行し、成功率は目下100%です。

当循環器科は全国的水準でみてもインターベンションでは最先端、最高レベルを誇っております。安心して紹介していただけると存じます。

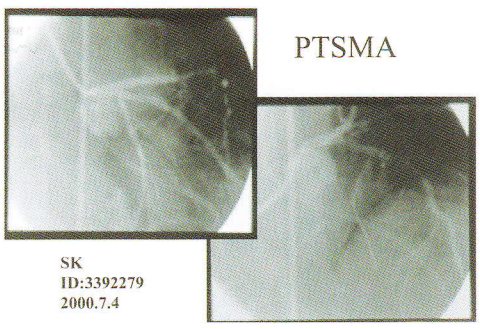
レーション（PTSMA）

循環器科　松尾仁司





SK　ID:3392279　2000.5.29



診療医師担当日表

病院管理者　院長　清水　勝　H13・7・1現在

		月	火	水	木	金
内科	一番	八巻（循環器科） 松尾（循環器科）	大野（腎臓科） 宮田（循環器科）	松尾（循環器科） 琴尾（循環器科）	瀬川（循環器科）	大橋（腎臓科）
	二番	田中（循環器科） 小田（腎臓科）	渡辺（循環器科）	大橋（腎臓科）	小田（腎臓科） 琴尾（循環器科）	門崎（循環器科） 富田（循環器科）
	三番	渡辺（循環器科）	富田（循環器科）	松野（循環器科）	渡辺（循環器科）	渡辺（循環器科）
	特殊外来		大橋（CAPD） 松野（ペースメーカー）	渡辺（ハートクリニック）	大橋（CAPD） 宮田（ペースメーカー）	
	五番初診	山田	大西	大西	大西	小林（初診・再診）
	六番	清水（肝） 西田（神）午後 予約のみ	清水（肝） 小林　午後（胃透視結果説明）	川瀬（消化器）	西田（神）	西田（神）初診
	七番（再診）	田中（神）	福富（消化器）	山田（呼吸器） 小林　午後（胃カメラ結果説明）	渡辺（消化器）	安田（呼吸器） 初診・再診
	八番	吉野（総合内科）	診療医不定（総内） 太田（心身）　午後	診療医不定（総内） 柴田（心身）　午後	尾崎（総合内科）	吉野（総合内科） 伊藤（心身）午後
	九番	栗本（総合内科）	村山（総合内科）	栗本（総合内科）	村山（総合内科）	栗本（総合内科）
小児科		高橋（小児） 有木（小児） 高橋（脳波外来）午後 黒田（心理外来）午後	高橋（小児） 松尾（小児） 黒田（心理外来）午後	高橋（小児） 有木（小児） 松尾（腎臓・肝臓外来） 井上（心理外来）午後	高橋（小児） 舩戸（小児） 松尾（内分泌アレルギー） 井上・黒田 （心理外来）　午後	高橋（小児） 松尾（小児） 高橋（発達外来）午後 有木（神経内分泌外来） 黒田（心理外来）午後
小児循環器科		桑原尚（予約のみ）	桑原尚	桑原尚	桑原尚	（休診）
新生児科		市橋（午後）	市橋（午後）	加藤（午後） 井上（心理外来）午前	市橋（午後） 黒田（心理外来）午前	加藤 井上（心理外来）1,3,5週 黒田（心理外来）午前
外科	一診	山森 / 三澤	三澤 / 古市	大橋 / 大橋	古市 / 三澤	大橋 / 山森
	二診	酒井 / 早川	河合 / 酒井	早川 / 河合	山森 / 河合	早川 / 酒井
脳神経外科		谷川原 / 大熊	（手術）	中谷 / 服部	谷川原 / 大熊	中谷 / 服部
整形外科		笹野（初診） 川口（再診）	横井（初診） 飯沼（再診）	鈴木（予約再診のみ）	川口（初診） 横井（再診）	飯沼(初診)・笹野(再診) 村田（再診）午後のみ
心臓血管外科		島袋 又は 平澤	（手術）	澤村	（手術）	滝谷
小児心臓外科		（手術）	長津・村上（午後）	（手術）	（手術）	（手術）
皮膚科		前田・山崎・遠渡 （検査）	初診のみ（特殊治療） （手術）	前田・荒木・山崎・遠渡 学童外来	前田・荒木・山崎・遠渡 （手術）	荒木・山崎・遠渡 （検査）
泌尿器科		竹内	酒井	谷口	診療医不定（初診のみ）	三輪
産婦人科		山田（初診・再診） 篠原（妊婦検診） （検査）	中川（初診・再診） 篠原（妊婦検診） （手術）	山田（初診・再診） 青木（妊婦検診） （手術・検査）	青木（初診・再診） 中川（妊婦検診） （手術）	篠原（初診・再診） 中川（妊婦検診） （検査）
眼科		松浦・白木 （手術）	直原・松浦・白木 （斜視・弱視外来・外来手術）	直原・松浦・白木	直原・松浦・白木	診療医不定 （手術）
耳鼻咽喉科		柳田正・柳田三・牛田 （手術）	柳田正・柳田三・牛田 （予約検査）	（手術）	柳田正・柳田三・牛田 （予約検査）	柳田三・牛田 （手術）
放射線科		三宅	三宅	（検査）	三宅	三宅
歯科口腔外科		石丸 （手術）	水井	石丸・水井 （検査）	石丸 （手術）	石丸・水井 （顎関節外来）

＊受付時間／平日 8:30から11:00まで

編集後記

岐阜県立岐阜病院病診連携新聞第1号をお届けします。新聞の名称を公募し、“すこやか”を採用させていただきました。病診連携に向けて、先生方に少しでもお役にたてる紙面を目指しています。ご意見、ご要望がございましたらお寄せください。お待ちしています。

岐阜県立岐阜病院
〒500-8717 岐阜市野一色4丁目6番1号
TEL（058）246-1111（代）　FAX（058）248-3805
http://www.pref.gifu.jp/gifu_hospital

発行／岐阜県立岐阜病院病診連携推進部会